

2014 年度 小委員会活動成果報告

(2015 年 1 月 14 日作成)

小委員会名	新しい住環境価値の創造小委員会	主 査 名：野澤 康 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	都市計画委員会	委員長名：有賀 隆 主 査 名：
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>設置目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居住地として維持するためにそのまちの価値を再発見・再価値化するための「まちづくり手法」と「まちづくり活動」のあり方を議論し、一般解の導出のあり方を示す。 ・これからの都市が実現すべき都市構造や土地利用の在り方やその実現手法・コントロール手法について議論し、次世代型の都市計画（制度）など、次の議論につながる示唆を得る。 <p>2014 年度活動計画：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進的な地方都市事例収集 ・地価に関する考え方の整理、地価を評価する町づくりのしくみ ・以上を整理し、次年度に実践事例および研究対象地を抽出。 	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：有</p> <p>主査：野澤康 (工学院大学) 幹事：岡絵理子 (関西大学)、桑田仁 (芝浦工業大学) 委員：秋田典子 (千葉大学)、内田奈芳美 (埼玉大学)、加藤浩司 (有明工業高等専門学校)、木内望 (国総研)、佐久間康富 (大阪市立大学)、田中友章 (明治大学)、藤井正男 (UR 都市機構)、星卓志 (工学院大学)、山中知彦 (新潟県立大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2014 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/toshi/s7/

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 公開研究会「住環境を価値づけるための不動産的視点」 <div style="text-align: right;">(2 月 23 日 42 名)</div>
大会研究集会	1. オーガナイズドセッションの実施
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p style="text-align: center;">目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2回4箇所の見学会・視察を行い、研究背景・目的を共有・確認することができた。 2. 全国各地域でまちづくりの支援を行っている委員により、これまで収集した新しい住環境価値の萌芽が見いだせる事例を整理した上で、新しい住環境価値とはどのようなものであるのかについて、改めて不動産価値の切り口で議論を深めるため、経済分野の研究者を招いた公開研究会の開催を準備している。 3. オーガナイズドセッションを通して、まちづくり活動事例の収集を進めた。
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの事例研究を踏まえ、ワークショップなどの実施により、担い手とまちづくりの制度・技術手法の整理を試みたが、場所・地域に起因する部分が多いことが明らかとなった。 2. 3回目となるオーガナイズドセッションを実施し、地域でのまちづくり活動事例の収集をさらに進め、多様な住環境価値の抽出を図る必要がある 3. 1, 2と関連して、「新しい住環境価値の創造」を委員間で共有体験することで、それぞれが持ち合わせていた新しい住環境価値の活用・創造技術を持ちより、価値共有をする機会を設けるための場として、ワークショップを行う必要がある。 4. 小委員会単独の課題ではないが、公開研究会を開催するにあたり、現行のルールではメンバーに旅費が支給されないが、このことがかえって公開研究会の積極的な開催を阻んでいる。都市計画本委員会より問題提起してもらいたい。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。